

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077500132
法人名	有限会社 ひがし
事業所名	グループホーム三春
所在地	うきは市浮羽町三春 1982-1 (電話) 09437-7-1300

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町 3-1-7
訪問調査日	20年 10月 31日
評価確定日	20年 12月 15日

【情報提供票より】(平成20年 10月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 12月 25日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数	18 人
職員数	16 人
常勤	15人
非常勤	1人
常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,400 円	その他の経費(月額)	9,156 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成20年 10月 17日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	筑後川温泉病院 上田内科胃腸科医院 中村歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

コスモスロード・果樹園・菜園と、自然環境に恵まれた事業所は、ゆったりとした敷地に明るい色の2棟が並立した平屋建てで、落ち着いた雰囲気がある。天気の良い日には、毎日周囲を散歩し、生活の中にリハビリがあり利用者の表情はとても明るい。共用空間には、畳の間があり、寒い時期には炬燵が設置され、利用者の会話はより進み、相互間の親しみの深まりが伺える。レクリエーション時や、昼食後に個別の得意分野を披露できるよう職員が呼びかけ、利用者の持つ自己資源の維持回復を、無理なく、ゆったり・楽しく支援し、意向・希望を尊重し、支え合う関係作りを実践している。地域に密着、地域と共に支えあう事業所は、全職員で、更なるケアの向上を目指し意欲と情熱を持ち日々取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	前回の評価で見出された改善点は全職員で話し合い、改善シートを作成し、権利擁護に関する制度など、具体的に取組み研修し、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
重点項目③	自己評価は、項目毎に全職員に聞き、意見を出し合い検討し、反映させながら取り組んでいる。日頃のケアを見直す機会にしている。
重点項目④	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目⑤	定期的に開催し、利用者やサービスの実態、自己・外部評価を報告し助言や意見を得ている。また、内部研修・視察研修などを話し合っている。外出を多くとの意見があり、ドライブ等を実施するなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目⑥	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
重点項目⑦	家族から意見・希望が出やすいよう、来訪時には声掛けをし話し合っている。意見箱を設置している。第三者相談窓口・苦情窓口を説明している。利用者の散髪の数について、同系事業所と一緒にボランティアによる散髪が良いのでは、との家族の声があり、それを運営に反映させている。
重点項目⑧	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑨	事業所便りを地域、公民館、派出所等に自治会を通じて回覧している。地域の敬老会・福祉祭り・行事等地域活動に参加し、中学校の運動会に出かけたり、体験学習を受け入れている。また、事業所のイベントや祭りには地域住民の参加があり、地域との交流に努めている。近隣や専門学生のボランティアも受け入れている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者や家族の意向を尊重し、地域密着型サービスの意義を全職員で話し合い、地域の中でその人らしい生活を支えるケアと、事業所と地域の支え合いの強化を図る事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時や、ミーティング時に唱和・確認し、理念を共有している。また理念の実践に向け、言葉かけ、態度、記録などに取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所便りを地域、公民館、派出所等に自治会を通じて回覧している。地域の敬老会・福祉祭り・行事等地域活動に参加し、中学校の運動会に出かけたり、体験学習を受け入れている。また、事業所のイベントや祭りには地域住民の参加があり、地域との交流に努めている。近隣や専門学生のボランティアも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で話し合い、項目毎に意見を聞き、反映させながら取り組んでいる。外部評価は、改善シートを作成し取り組み、権利擁護に関する制度の理解と活用や、人権教育・啓発活動は具体的に外部・内部の研修をし、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している。利用者やサービスの実態、自己・外部評価を報告し助言や意見を得ている。また、内部研修・視察研修などを話し合っている。外出を多くとの意見があり、ドライブ等を実施するなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政へ事業所長は週1回程度出向き、担当者と事務的手続きや行事・運営などにつき現状を出来るだけ話している。市とは話し易い関係にあり、問題に対して協議して解決にあたっている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は外部・内部の研修学習で学び、制度に関して理解・活用ができています。テキスト・研修記録・報告書が整理・ファイルされ、利用時に利用者・家族に説明支援を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回事業所便りを発行し、利用者の近況・行事・職員異動を知らせ、家族来訪時には、利用者の暮らしぶり・健康状態を話している。変化時には電話で連絡を取っている。金銭管理については、個々の出納簿を作成し、領収書と共に毎月家族来訪時に明示し、署名・押印を貰っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見・希望が出やすいよう、来訪時には声掛けをし話し合っている。意見箱を設置している。第三者相談窓口・苦情窓口を説明している。利用者の散髪の数について、同系事業所と一緒にボランティアによる散髪が良いのでは、との家族の声があり、それを運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	希望を取り入れ勤務表を作成したり適正を考慮するなど、職員の異動や、離職を最小限に抑える努力をしている。日常的に2ユニット間の交流をし、馴染み関係を作り、やむを得ず職員が代わる際の利用者へのダメージを防ぐ工夫をしている。また、その際の引継ぎ期間も十分に取っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、性別・年齢を理由に排除しない。配置・昇進・教育訓練・定年・退職においても差別はしない。本人の能力や適正を考慮し、誰もが能力を発揮し、社会参加や自己実現が出来る権利が保証されるよう配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員が外部・内部研修を受け学び、更に毎月第1水曜日に勉強会を行っている。テキスト・研修記録・報告書を保管し、再確認し、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員研修を勧めたり、参加を呼びかけている。研修内容を共有できるよう、勉強会・ミーティング時に発表する機会を設けている。また、働きながら、トレーニングしていく事を進めている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の介護サービス事業連絡会グループホーム部会に加入し、事業所長・管理者は同業者と年2回交流し話し合い、サービスの質の向上を図っているが、他の職員の交流はない。	○	職員も他の事業所・職員と交流し、サービスの質の向上に取り組んで欲しい。
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人の見学・体験を行っている。職員が自宅訪問・病院訪問をして馴染み関係を作るよう工夫している。即利用の場合は、家族に暫く事業所へ来て貰うようにして、職員は声かけを多くしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・後片付け・掃除など生活の場面で、職員は利用者と協働し、感謝の気持ちを伝える良い関係作りを心がけている。入浴介助時には、特に親しくし方言の面白さなどを教えて貰っている。畑仕事・漬物の漬け方・踊りなど、利用者の得意分野を発揮して貰い共に学び、支え合う関係作りをしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添いながら、しっかりと話に耳を傾け、表情・行動に関わり、声かけや思い・希望・意向の把握に努めている。意思疎通困難な場合は、家族などから情報を得て、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の思いや意向及び全職員の気付き・アイデアを取り入れ、作成している。本人・家族への説明を行ない、同意の署名・押印を貰っている。担当制を取り、きめ細やかな支援を考慮している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の介護状況のチェック、3ヵ月毎の見直し、6ヵ月毎との介護計画の作成、状況や変化に応じて現状に即した随時の見直しを行い、家族などへ連絡している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、管理者などが見舞いに行き、本人・家族・医療機関と連携を密にし早期退院へ向け取り組んでいる。通院送迎の必要時には柔軟に対応している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意見・希望を大切にし、希望するかかりつけ医・協力医による診療を支援している。受診に際しては、情報の伝達など家族と話し合い合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と練り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した時、家族や医療機関と密に連携し対応した事例はあるが、しっかりとした方針の共有には至っていない。事業所としては、本人・家族の希望があれば対応したい。	○	重度化や終末期の方針について、できるだけ早い段階から、事業所・家族・本人・医療関係者・全職員で話し合い、家族等の納得の上で方針を全員で共有してほしい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修やミーティングなどで職員の意識化を図り、諸場面での声かけや、対応につき日常的にプライバシー確保に心がけ、ケアを実践している。不適切な対応時には管理者がそれとなく注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、何事も声をかけながら本人の希望・思いに添って支援している。意思疎通困難な利用者には、表情・動作などで本人の気持を図り、本人本位に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と同じものを同じテーブルで、職員は介助・見守りをしながら食べ、話題を拡げ食事を楽しいものになっている。調理・後片付けと一緒にし、会話の中から嗜好などを知り、支援をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望に合わせて柔軟に入浴を楽しめるように支援している。拒否の場合は人を代え、時間を代え、タイミングを図り支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来る事や得意なことを把握し、料理・裁縫・掃除・カラオケ・踊り・畑仕事など楽しみも含めて支援している。家事全般は、希望者が多いので仕事の担当を順番制で決め、支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や希望・天候に配慮し、ほぼ毎日近くの果樹園の所など周囲を散歩し、買い物にも出かけている。3ヶ月1回程度、花見・お寺参りなどのドライブを行い、たまの外食など、戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居間・玄関に施錠はしていない。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。利用者の外出傾向を把握しており、見守りや付き添い歩きを行なっている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備している。年2回、防災訓練を実施しており、そのうち1回は消防署の協力を得て行っている。地域住民の参加協力を得ている。また、救急救命の訓練を受けている。災害時の非常食・飲料水・備品については、整備されていない。	○	あらゆる災害を想定し、非常食や備品を事業所で整備してほしい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は利用者の嗜好を考え、メニュー委員会の職員がバランス・カロリーなどを考慮し献立を作成している。	○	最低年1回はかかりつけ医や、栄養士などによる専門的チェックやアドバイスを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランターの花、共用空間にはテーブル・椅子・ソファ・和室があり、壁には利用者の絵・行事の写真を飾っている。職員の声・採光は適切で、生活感や季節感をがあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和・洋の好みで過ごせる工夫がなされている。整理ダンス・テーブル・椅子・小物・仏壇・家族の写真・時計など思い出の品・馴染みの物が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※ は、重点項目。